



農作業メモ

麦類の栽培管理

平成26年産麦類は、2月の大雪の影響で十分な穂数が確保できず、前年に比べ減収となりました。一方、品質は良好でした。

平成27年産も基本技術を励行し、高品質安定生産を目指しましょう。

排水対策

収量低下の主な要因の一つは湿害によるものです。

弾丸暗渠の実施や排水溝の設置を行います。排水溝は、ほ場の周囲及びほ場内5〜10m間隔に設置し、排水口につなぎます(図)。

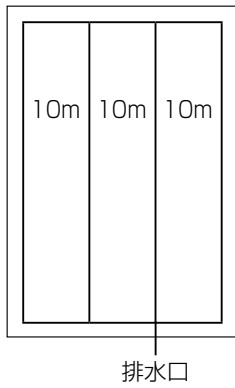


図 排水溝の例(30a)

出芽の安定
多湿状態の土壌を耕うんすると砕土

が粗くなり、出芽・苗立ちが不安定となります。

出芽・苗立ちの安定のために多湿状態での耕うんは避けましょう。

適期・適量は種

は種期が早過ぎる場合は凍霜害や萎縮病の被害を受けやすく、遅過ぎる場合は生育不足による収量の減少や品質低下につながります。

は種量が多過ぎる場合は倒伏の発生や短穂化を引き起こします。

適期・適量は種を行いまし(表1)。

表1 種類別は種期(月/日)と
は種量(ドリル播: kg/10a)

麦の種類	品 種 名	は 種 期	は種量
小 麦	さとのそら	11/10 ~25	5~8
	あやひかり	11/10 ~25	6~8
二条大麦	彩 の 星	11/5 ~20	6~8
六条大麦	す ず か ぜ	11/5 ~20	5~6

適正施肥

収量と品質を確保するためには適切な肥料が必要です。

麦の種類に応じて適正量を施用します(表2)。

また、地力が低い場合は、堆肥を施用し、土づくりや地力増進を行います。

表2 基肥施肥量
けやき化成(14-14-14)の場合

麦の種類	品 種 名	施肥量 (Kg/10a)
小 麦	さとのそら	60~70
	あやひかり	60~70
二条大麦	彩 の 星	50
六条大麦	す ず か ぜ	50

雑草防除

雑草は、小麦から養分、水分を収奪することで生育不良を招き、収量を低下させます。また、収穫時の雑草種子

の混入は品質低下などの原因となります。

優占雑草や麦類の生育状況を考慮し、は種後の土壌処理剤を的確に散布しましょう(表3)。

表3 麦類の土壌処理剤

農 薬 名	使用時期	適用雑草	備考
ゴーゴーサン細粒剤F	は種後出芽前(雑草発生前)	1年生雑草	
トレファノサイド乳剤	は種後発芽前(雑草発生前)	1年生雑草	
バンバン乳剤	は種後出芽前(雑草発生前)	1年生雑草	小麦のみ
	出芽直後~出芽前期 (雑草発生始期まで)	1年生雑草	
ボクサー	は種後~麦2葉期まで (雑草発生前~雑草発生始期)	1年生雑草	
ムギレンジャー乳剤	は種後出芽前(雑草発生前)	1年生雑草	
□ロックス	は種後~発芽前 (雑草発生前~発生始期)	1年生雑草	

記載農薬は平成26年9月1日現在の登録状況に基づいています。